

2011年東北地方太平洋沖地震

（東日本大震災）

災害支援活動報告



東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の発生から2か月余り。いまだに福島原発事故が収まらない中、被災された皆様方には、心からお見舞い申し上げます。また、この地震で亡くなられた方々に対し、謹んでお悔やみ申し上げます。

被災地域の一日も早い復興と、皆様方のご健康を心からお祈り申し上げます。

広島市医師会は「十四大都市医師会災害時における相互支援協定」に基づき、3月18日（金）に広島を出発し、陸路で仙台入りしたのち、3月26日（土）まで災害支援活動を行いました。当検査センターからは、事務局員として藤本（営業課課長）と釘宮（検査1科科長補佐）の2名が出動しています。

〔詳細掲載〕広島市医師会ウェブページ URL: <http://www.city.hiroshima.med.or.jp/hma/saigai2011/sendai.html>

営業課課長 藤本 誠

今回の災害支援ではいろいろな光景を目にしました。また、これまでにない経験をさせていただきました。

いくつか紹介させていただきます。（詳細は上記ウェブページをご覧ください。）

- ・仙台へ向かう途中、上を見上げると新幹線が町の中で止まったままでした。
- ・中学校で仮設診療所を立ち上げる際、周りにいた小中学生が自然と荷物運びを手伝ってくれました。
- ・先生方の移送/送迎のために栃木・宮城を往復していましたが、いつも大吹雪でした。
- ・仙台では入浴できませんでした。

etc.

被災地の皆さんは、大変な状況の中でも、私たちに心配りをしてくれました。人は人によって、もっとも元気になるものだと、改めて気づかされました。



検査1科科長補佐 釘宮 亘

災害支援活動に行っても、「緊張感や恐怖感が強く、何もできないかもしれないけれど、何かできることがあれば…」という思いで出発しました。

津谷理事が中学校の校長先生に直接談判し、保健室を診療所として被災者を問診し、診察、治療をされ、また一方では巡回診療されることになったので、そのお手伝いをしてきました。



被災者の方から地震直後の状況を聞く機会があり、自分の家や地域が跡形もなくなったことを悲しそうに話され、私は何と言葉をかけてあげればいいのか分かりませんでしたが、気持ち察し、共感して話をお聞きすることで、少しは不安を和らげることができたのではと思いました。

限られた時間の中ではありましたが、貴重な経験をさせていただき感謝しています。これからも継続的な皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。